

平成23年2月

林育太 学位論文審査要旨

主 査 原 田 省
副主査 豊 島 良 太
同 萩 野 浩

主論文

Effect of raloxifene on arthritis and bone mineral density in rats with collagen-induced arthritis

(コラーゲン誘発関節炎ラットにおける関節炎および骨密度に対するラロキシフェンの効果)

(著者：林育太、萩野浩、岡野徹、榎田誠、豊島良太)

平成23年 Calcified Tissue International 掲載予定

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、関節リウマチ（RA）の動物モデルであるコラーゲン誘発関節炎ラットに、選択的エストロゲン受容体モジュレーターの一つであるraloxifene（RAL）を投与して、関節炎および骨組織に対する効果を検討したものである。その結果、卵巣摘出の有無に関わらず、RALが関節炎と骨密度低下を抑制することが示された。本論文の内容は、閉経後と同様に、閉経前のRA患者に対してもRALが有用な薬剤となる可能性を示唆したものであり、明らかに学術の水準を高めたものと認められる。